

学年 第3学年

時間 1時間 鑑賞25分(表現活動の導入として) 実習25分

題材

J 75~87	「新水墨画十二題」	児玉希望作	昭和34年	絹本墨画額装
J 152	「仔牛(べちこ)」	和高節二作	昭和10年	紙本彩色額装
J 284	「荘重(高士望岳)」	菱田春草作	明治35年	絹本墨画軸装
J-246	「龍虎争気」	橋本雅邦作		絹本淡彩双幅
J 264	「草花図」	福原五岳作	江戸時代	紙本墨画淡彩六曲一双
J 306	「柳暗」	丸木位里作	昭和16年	紙本墨画額装
J 308	「牛」	丸木位里作	昭和17年	紙本墨画額装
J-318	「希求」	松岡呑空作	平成6年	絹本墨画額装

題材について

墨は記録としては奈良時代初期に伝えられたとあるが古墳壁画に黒などの彩色が用いられており、相当早い時期に中国または朝鮮から輸入されていたと思われる。

水墨画は中国の唐の時代にその技法が確立したと言われ、日本には鎌倉時代以降、禅宗の移入とともにその精神世界を表現する手段として描かれるようになったという。

その後の南画や文人画、現代の絵手紙に至るまで墨画と私たちとの関わりは深いといえるだろう。

西洋画のデッサンや水彩、油彩画のように形を調べて描いたり消したり、塗り重ねて表現したりするのは違い一筆で形を決める描き方は練習を必要とするが、新鮮みもあって関心を示す中学生も多い。

水墨画は昔から手本を模写することが練習法の第一歩であったようであるが、絵手紙のように自由に描いてもよいであろう。ただ墨画は水と墨との用い方によって多様な表情を見せるので、そうした多様な表現の作品を鑑賞して、模写をするなどして筆や墨の扱いになじんでから制作に取り組んでいくとよいと考える。

指導要領との関連 [第2学年及び第3学年] 2内容 A表現(1)ウ B鑑賞ア、イ、オ

- 目標
- ・墨の表現の多様性を知り、それぞれの美しさを味わう。
 - ・墨の表現を自分で試して、作品に生かしていく気持ちを持つ。

学習展開

学習活動(予想される生徒の反応)	学習内容	指導上の留意点
(鑑賞) 作品を見て、自分の好きなものを描き方(墨の濃淡や筆遣い)にポイントをおいて一つ選ぶ。 選んだ理由(どんなところが好きか)をプリントに書く。 (表現) 席を移動して、用具を準備する。 模写をする。 *部分でも良い 後片づけ	作品の複製を掲示しておく。 作品の複製を机に分けて置く。 生徒は好きな作品の所へ移動する。 机間巡視しながら描き方を説明。	たくさんの絵の中からポイントにそって気に入った一点を選ぶことができたか。 どうすれば同じような表現ができるか考えながら(部分)模写をすることができたか。

準備物

- ・作品の複製画(カラーコピーなどで墨の濃淡など微妙な所も分かるものがよい、各3点ずつくらい用意できればよい)
- ・鑑賞ワークシート、糊・和紙
- ・書道具(生徒)

鑑賞ワークシート

鑑賞した作品の中から好きな作品を1つ選び題名と選んだ理由を書きましょう。

模写した紙を貼っておきましょう

平成 年 月 日 () 曜日

第3学年 組 番 氏名